

## 令和3年度 第1回総合教育会議 議事録

会議名称	令和3年度 第1回総合教育会議
開催日時	令和3年8月2日（月） 10時00分～11時25分
会 場	芦屋町 本庁舎3階 課長会議室
委員の出欠	<p><b>【委員】</b></p> <p>町 長           波多野 茂丸   〔出席〕</p> <p>教 育 長       三 榊 賢二   〔出席〕</p> <p>教育委員       長戸 隆弘   〔出席〕</p> <p>教育委員       井上 弘行   〔出席〕</p> <p>教育委員       吉崎 強志   〔出席〕</p> <p>教育委員       森山 真奈美 〔出席〕</p> <p><b>【委員以外の出席者】</b>（オブザーバー）</p> <p>副 町 長           中西 新吾</p> <p>学校教育課長   木本 拓也</p> <p>生涯学習課長   本石 美香</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>企画政策課長                   池上 亮吉</p> <p>企画政策課 企画係長           本郷 宣昭</p> <p>企画政策課 企画係               福原 知里</p>
議題	<p>1 芦屋町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価報告書について</p> <p>2 その他</p>
合意・決定事項	<p>○「芦屋町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価報告書」の内容について了承される。</p> <p>○次回の会議は2月開催。次年度の取り組みについて説明予定。</p> <p>緊急の事案があれば、その都度開催する。</p>
傍聴者	なし

# 令和3年度 第1回総合教育会議 議事録

## 1 町長あいさつ

コロナ禍において、児童・生徒は普段と違う夏を過ごすこととなった。教育関係者や保護者の皆様には多くの負担を強いることとなり、関係各位のご尽力に感謝を申し上げる。

芦屋町は今年で町制施行130周年を迎え、様々なイベントを予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部行事を中止とした。

このような中であるが、芦屋釜が芦屋町に戻ってくるという記念すべきことがあった。今後、里帰りした芦屋釜によって来町者が増加することが期待される。

新型コロナウイルス感染症については、マスコミ等で日々報道されているが、芦屋町でも感染者が増えてきている。児童・生徒の体調など一層注意していただき、情報共有をお願いしたい。

また、ワクチン接種については、これまで65歳以上の高齢者を中心に実施してきたが、7月からは16歳～64歳を対象に接種を進めている。接種は順調に進んでおり、これは芦屋中央病院の協力が大きな要因と言える。12歳から15歳の児童・生徒に対する接種も8月から行う予定である。

ワクチン接種は、新型コロナウイルスに感染した場合に、発症や重症化を予防する効果が期待されているが、あくまで本人が希望する場合に限り接種するものである。職場や周りの方などへの接種の強制や、接種を受けていない人への偏見や差別につながる行為、人権侵害、誹謗中傷などは絶対にあってはならない。

3度目、4度目の正念場であるが、一つ一つ取り組んでいく所存である。

## 2 議 題

### (1) 芦屋町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価報告書について

#### 【資料1】点検及び評価報告書、【資料2】生田教授の意見書

- 主に、学校教育に関する事項は三桝教育長、社会教育に関する事項は本石生涯学習課長より説明。

#### 【意見等】

- 3点申し上げる。

1点目は、ICT教育の研修について。教員のICTの活用力に差があるため、研修に力を入れていただきたい。ICTを活用するための技術的な研修もあるだろうが、活用に消極的であるなど、技術面以外の問題が解消できるような研修も必要ではないだろうか。

2点目は、ICT支援員について。以前、空き教室を家庭と見立てリモート授業を行うという実証実験において、通信障害など技術的な課題が生じたが、その際にICT支援員が活躍した。これからのICT教育の実践にあたり、ICT支援員の配置はもっと必要になると感じている。

3点目は、家庭教育におけるICTの活用について。各学校が足並みを揃えるというよりも、どんどん進んで活用する学校に他の学校が追随し、その結果足並みが揃うようなイメージで、家庭教育におけるICTの活用が推進していけばよいと思う。

⇒ 行政は児童・生徒のためになることであれば最大限支援する。

○ 4点申し上げる。

1点目は、ICT教育の研修について。芦屋町は他の自治体に比べICT教育が進んでいると言える。他の自治体から新たに赴任してきた教員は、ICTを活用する意識を持つことが大切であるため、積極的に研修を行っていただきたい。

2点目は、家庭学習について。資料1の3ページ【課題】に「家庭学習に対する意欲化と習慣化の向上」とあるように、教員が一番苦慮しているのは、家庭学習による基礎学力の定着化である。教員がどれだけ頑張っても、家庭の協力がないと難しく、また、家庭の協力を得られないこともあるため、PTAと連携し、積極的に情報発信していただきたい。家庭学習が行われるようになれば、基礎学力も定着しやすくなると思う。また、家庭学習が苦手な児童・生徒にも、繰り返し学習の手段としてICTを活用できるのではないかと考える。

3点目は、シビックプライドについて。芦屋町には文化や地域素材が豊富にあるということを教員にも知っていただき、教員自身に芦屋町に対するシビックプライドを持って欲しい。また、学んだことを、ICTを活用して町内外の他の学校などに発信して欲しい。

4点目は、語先・後礼の推進について。今後も積極的に推進していくことにより、あいさつができる児童・生徒が育つと思う。

⇒ あいさつについては、芦屋町の児童・生徒はよくできていると思う。マスコミでよく取り上げられている東京など都市部の教育方法に執着する必要はなく、地方は地方のやり方で粛々と進めていけばよいと考える。

○ シビックプライドの醸成について、児童・生徒に対しては様々な取り組みを実施し定着していると感じるが、保護者に対するシビックプライドの醸成はまだ十分とは言えず、進めていく必要がある。芦屋釜の里に行ったことがなかったり、芦屋釜の凄さを知らなかったりする保護者も多いと聞くため、保護者を巻き込んだ取り組みが必要である。

⇒ 先日、職員が研修の一環で芦屋釜の里に行く機会があったが、初めて芦屋釜の里に来た職員や、新人研修以来といった職員もいた。芦屋釜の里はこれからも盛り上がっていくと考えられ、職員に対するシビックプライドの醸成も大切である。

○ 2点申し上げる。

1点目は、シビックプライドの醸成について。芦屋町民にとって、芦屋町に芦屋釜があるのが当たり前になっており、わざわざ公民館講座などに話を聞きに行こうと思わないのではないかと感じている。そのため、児童・生徒の呈茶体験などをきっかけに保護者のシビックプライドの醸成に取り組むのがよいと思う。可能であれば、教員の皆さんにも公民館講座に参加して欲しい。

2点目は、ICT支援員について。芦屋町はICT支援員が常駐しており、ICT環境が充実している。また、タブレットの良さについて、例えば、紙で出された宿題は解いたら終わりだが、タブレットは次の問題にどんどん進んでいくことができ、次の学びに活かしやすいと感じる。

○ 2点申し上げる。

1点目は、生涯学習講座「あしや塾」について。「あしや塾」の内容には公民館講座や図書館の催し物などがあり、芦屋町のことがよく分かる内容となっている。そのため、

もっと多くの人に広める必要があると思う。

2点目は図書館について。芦屋町図書館は、遠賀町図書館の蔵書数には劣るものの、延べ床面積は広いなど、環境は充実している。図書館について町民や役場の職員に知って欲しい。

## (2) その他

### [事務局]

○次回の会議は2月開催。次年度の取り組みについて説明予定。緊急の事案があれば、その都度開催する。